

エコアクション21 環境経営レポート (2022年度)



®環境省
エコアクション21
認証番号0000739



株式会社 斗セキ九州

対象期間：2022年1月1日～12月31日

発行日：2023年4月1日

目次

会社概要	2
事業所一覧	3
対象範囲・実施体制	5
環境経営方針	6
環境経営目標と実績	7
環境経営計画の取組結果・評価	8
環境への取り組み	9
環境関連法規の遵守、違反・訴訟等の有無	15
代表者による全体評価と見直し	16
SDGs	17
次年度の環境経営目標・計画	18
編集後記（巻末）	

会社概要

事業者名	株式会社イセキ九州
代表者	代表取締役 村瀬 武志
本社所在地	熊本県上益城郡益城町平田2550番地
事業内容 (認証・登録範囲)	農業用機械器具の販売・修理・使用技術の指導、 農業施設の設計・監理・施工、農業資材の販売、 コイン精米の経営、民間車検業務
設立	1972年12月12日
資本金	9000万円
売上高	108億円
従業員数	500名（2023年1月1日現在）

環境関連の責任者および担当者連絡先

株式会社イセキ九州 本社

〒861-2212

熊本県上益城郡益城町平田2550番地

TEL：096-286-0303

FAX：096-286-0309

環境管理責任者 管理部長 渥海 裕彦

環境管理担当者 管理部総務グループ長 田中 豊治

環境管理担当者 管理部総務グループ 水野 譲二

環境管理担当者 管理部総務グループ 河辺 涼太

環境管理担当者 管理部総務グループ 村上 道志

URL <http://www.isekikyusyu.co.jp>

事業所一覧

拠店	TEL	所在地	認証 対象
本 社	096-286-0303	熊本県上益城郡益城町平田2550	レ
九州アグリサポートセンター	096-286-0710		
福岡営業部	0946-42-1401	福岡県朝倉郡筑前町中牟田1175-2	レ
筑紫営業所	0946-42-4692		
福岡整備センター	0946-42-1401		
遠賀営業所	093-293-1133	福岡県遠賀郡遠賀町広渡2103	レ
宮田営業所	0949-32-1260	福岡県宮若市本城451-1	レ
筑豊営業所	0948-42-0795	福岡県嘉麻市山野639-3	レ
福岡北部整備センター	0948-42-0795		
豊築営業所	0979-83-3538	福岡県豊前市恒富63-1	レ
糸島営業所	092-331-0020	福岡県糸島市末永439-11	レ
甘木営業所	0946-22-3542	福岡県朝倉市牛木688	レ
吉井営業所	0943-75-2583	福岡県うきは市吉井町681-1	レ
小郡営業所	0942-72-3673	福岡県小郡市福童365-3	レ
大刀洗営業所	0942-77-0050	福岡県三井郡大刀洗町大字本郷1997-1	レ
南筑営業所	0944-63-7799	福岡県柳川市三橋町五拾町186	レ
佐賀営業所	0952-29-5517	佐賀県佐賀市兵庫町大字若宮223-6	レ
長崎営業部	0957-22-2320	長崎県諫早市小野島町2236	レ
諫早営業所	0957-23-1147		
長崎整備センター	0957-22-2320		
長崎北営業所	0956-65-2062	長崎県佐世保市江迎町赤坂221	レ
大村営業所	0957-55-8219	長崎県大村市宮小路1-485	レ
南高営業所	0957-78-3997	長崎県雲仙市国見町神代己320-2	レ
熊本営業部	096-286-0333	熊本県上益城郡益城町安永1400	レ
熊本整備センター	096-286-0011		
熊本中央営業所	096-286-2016		
玉名営業所	0968-72-5171	熊本県玉名市小野尻字川丁561	レ
山鹿営業所	0968-43-2252	熊本県山鹿市新町406	レ
菊池営業所	0968-25-2151	熊本県菊池市野間口546-1	レ
熊本北営業所	096-242-3837	熊本県合志市合生3829	レ
阿蘇営業所	0967-22-0054	熊本県阿蘇市一の宮町宮地3365-4	レ
小国営業所	0967-46-4415	熊本県阿蘇郡小国町宮原1849-1	レ
高森営業所	09676-2-0155	熊本県阿蘇郡高森町高森1404-6	レ
大津営業所	096-293-3181	熊本県菊池郡大津町大字町414-1	レ
宇城営業所	0964-22-0310	熊本県宇土市松山町4403	レ
鏡営業所	0965-52-0045	熊本県八代市鏡町内田237	レ
天草営業所	0969-24-1163	熊本県天草市亀場町食場979-3	レ
球磨営業所	0966-45-4838	熊本県球磨郡あさぎり町上西127-1	レ
人吉営業所	0966-22-3068	熊本県人吉市瓦屋町1635-1	レ

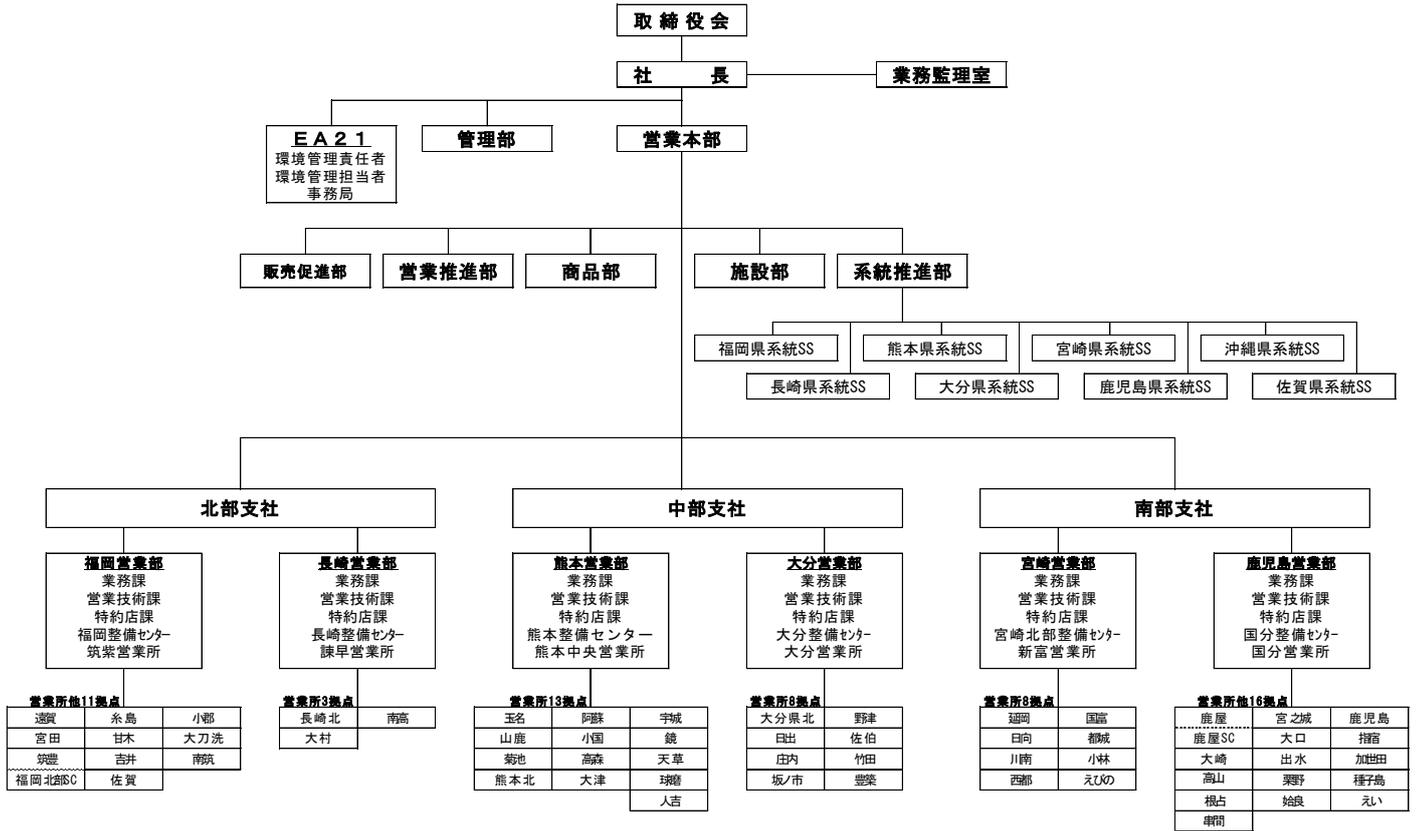
事業所一覧

拠店	TEL	所在地	認証対象
大分営業部	097-543-9161	大分県大分市畑中2丁目9-7	レ
大分整備センター	097-543-9161		
大分営業所	097-545-5885	大分県大分市畑中2丁目9-4	レ
大分県北営業所	0978-34-7020	大分県宇佐市大字北宇佐2187-1	レ
日出営業所	0977-72-5656	大分県速見郡日出町藤原1650	レ
庄内営業所	097-582-3088	大分県由布市庄内町大龍2400-5	レ
坂ノ市営業所	097-593-0340	大分県大分市屋山547	レ
野津営業所	0974-32-2591	大分県臼杵市野津町大字宮原3837	レ
佐伯営業所	0972-22-0536	大分県佐伯市池田1296-1	レ
竹田営業所	0974-63-1311	大分県竹田市拝田原499	レ
宮崎営業部	0983-33-0988	宮崎県児湯郡新富町上富田3210-1	レ
新富営業所	0983-33-4498		
宮崎整備センター	0983-33-0988		
延岡営業所	0982-33-2895	宮崎県延岡市恒富4丁目189	レ
日向営業所	0982-53-0420	宮崎県日向市塩見996-1	レ
川南営業所	0983-27-0243	宮崎県児湯郡川南町川南17698-1	レ
西都営業所	0983-43-1662	宮崎県西都市岡富1008-6	レ
国富営業所	0985-75-6222	宮崎県東諸県郡国富町本庄1977-1	レ
串間営業所	0987-72-0605	宮崎県串間市南方131-2	レ
都城営業所	0986-39-2507	宮崎県都城市下長飯町230	レ
小林営業所	0984-22-2477	宮崎県小林市細野西之川285-1	レ
えびの営業所	0984-33-0153	宮崎県えびの市原田2549-1	レ
鹿児島営業部	0995-45-1911	鹿児島県霧島市国分広瀬1628-1	レ
国分営業所	0995-45-0273		
国分整備センター	0995-45-1911		
鹿屋営業所	0994-42-5161	鹿児島県鹿屋市笠之原町1788-6	レ
鹿屋整備センター	0994-43-3012		
大崎営業所	099-476-0140	鹿児島県曾於郡大崎町假宿552	レ
高山営業所	0994-65-2019	鹿児島県肝属郡肝付町新富578-8	レ
根占営業所	09942-4-2662	鹿児島県肝属郡南大隅町根占川南599-1	レ
宮之城営業所	0996-53-0447	鹿児島県薩摩郡さつま町柏原2742-4	レ
大口営業所	0995-22-1304	鹿児島県伊佐市大口原田14-1	レ
出水営業所	0996-62-0414	鹿児島県出水市上知識町1024	レ
栗野営業所	0995-74-4456	鹿児島県始良郡湧水町米永1908-4	レ
指宿営業所	0993-22-3612	鹿児島県指宿市十二町409-2	レ
加世田営業所	0993-77-2893	鹿児島県南さつま市金峰町宮崎2841-4	レ
始良営業所	0995-66-2565	鹿児島県始良市西餅田1178	レ
種子島営業所	09972-7-9833	鹿児島県熊毛郡中種子町坂井2181-175	レ
えい営業所	0993-36-2611	鹿児島県南九州市穎娃町牧之内8820-3	レ
鹿児島営業所	099-298-2625	鹿児島県鹿児島市有屋田町606	レ
佐賀県系統SS	0993-36-2611	鹿児島県南九州市穎娃町牧之内8820-3	レ
沖縄県系統SS	099-298-2625	鹿児島県鹿児島市有屋田町606	レ

※系統営業部・系統SSは各営業部の従業員数に含める

対象範囲・実施体制

下図は当社「組織図」であると共に、認証・登録範囲について表しています。



担当者	主な役割・責任
代表者（社長）	エコアクション21環境経営システムの統括 経営における課題とチャンスを確認する 環境経営方針・環境目標・環境計画等についての承認 取り組み全体の評価と見直しの実施および指示
環境管理責任者	全社の環境統括者 環境経営システムの全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 エコアクション21業務全般の取りまとめ
環境管理担当者（事務局）	環境経営における事務局担当者、環境関連法規の取りまとめ 各種環境データの取りまとめ、環境経営方針・環境目標・環境計画の立案 環境活動に関わる情報発信、環境経営レポートの作成・報告
EA21推進者（支社長）	管轄内（支社・営業部・営業所・整備センター）の環境統括者
部門長・所属長	各現地における環境経営に基づく目標・計画の推進 緊急事態への対応訓練実施および報告 環境関連の記録と事務局への報告、（一般・産業）廃棄物の管理および報告
全従業員	環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

環境経営方針

環境基本理念

当社は「お客様に喜ばれる製品・サービスの提供」を通じて、持続可能な社会の実現を目指すべく、自然・社会・企業の調和に貢献する環境活動を推進します。

そして2050年までにカーボンニュートラルで持続可能な社会の実現を目指します。

環境基本方針

①継続的改善

環境マネジメントシステムの整備と機能的運用により環境経営の継続的な改善を実践します。

②環境に配慮した事業活動

カーボンニュートラルを実現する事業活動および製品サービスの普及を推進します。

③コンプライアンス

環境関連法規および社内規定・ルール等の自主基準を遵守します。

④環境教育と環境情報公開

すべての従業員が環境意識を持ち、社会へ貢献できるよう教育・啓発を行うとともに、環境関連情報を広く公開し社内外とのコミュニケーションを図ります。

株式会社 井セキ九州
代表取締役社長 村瀬 武志

制定日：平成17年9月30日

改定日：令和2年3月31日

改定日：令和5年3月31日

環境経営目標と実績

環境経営目標（全社）

2020年度実績を基準として、2021年度は1%削減、2022年度は2%削減、2023年度は3%削減とし、新設・統廃合した事業所分を調整。

項目	単位	2020年度 (実績/基準)	2021年度目標 (1%削減)	2022年度目標 (2%削減)	2023年度目標 (3%削減)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,463,097	2,438,466	2,303,912	2,280,767
電力使用量	kWh	958,389	948,805	927,325	896,488
ガソリン使用量	L	525,908	520,649	510,877	505,628
軽油使用量	L	296,392	293,428	290,444	286,150
灯油使用量	L	9,428	9,333	8,846	8,503
LPガス使用量	kg	1,133	1,122	1,089	1,041
産業廃棄物	t	879.1	排出量を把握する	排出量を把握する	排出量を把握する
水使用量	m ³	9,222	9,130	8,778	8,409
環境配慮製品の販売(トラクタ)	台	964	925	941	経営計画による
環境配慮製品の販売(田植機)	台	589	552	566	経営計画による
環境配慮製品の販売(マルチローター)	台		50	50	経営計画による

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2021年度の調整後排出係数「0.385 kg-CO₂/kWh」を使用。

※産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃油等）は、営業成績に比例するため削減目標とはせず、分別の徹底を行います。

※環境配慮製品の目標は、毎年の経営計画にて策定します。

※一般廃棄物は少量の為、目標には設定せず日常活動で管理します。

環境経営実績（全社）

【基準】○：100%以上、△：80%以上～100%未満、×：80%未満

項目	単位	2020年度 (基準)	2022年度 目標	2022年度 実績	対目標(基準のマイナス2%)		
					差異	達成率	判定
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,463,097	2,303,912	2,319,138	15,226	99.3%	△ 未達成
電力使用量	kWh	958,389	927,325	899,272	-28,053	103%	○ 目標達成
ガソリン使用量	L	525,908	510,877	508,284	-2,594	101%	○ 目標達成
軽油使用量	L	296,392	290,444	299,595	9,151	97%	△ 未達成
灯油使用量	L	9,428	8,846	6,971	-1,875	127%	○ 目標達成
LPガス使用量	kg	1,133	1,089	1,129	40	96%	△ 未達成
産業廃棄物	t	879	排出量を把握する	実践できた	———	———	○ 実践できた
水使用量	m ³	9,222	8,778	8,119	-659	108%	○ 目標達成
環境配慮製品の販売(トラクタ)	台	711	941	714	-227	86%	△ 未達成
環境配慮製品の販売(田植機)	台	527	566	452	-114	82%	△ 未達成
環境配慮製品の販売(マルチローター)	台	———	50	9	-41	25%	× 未達成

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2021年度の調整後排出係数「0.385 kg-CO₂/kWh」を使用。

環境経営計画の取組結果・評価

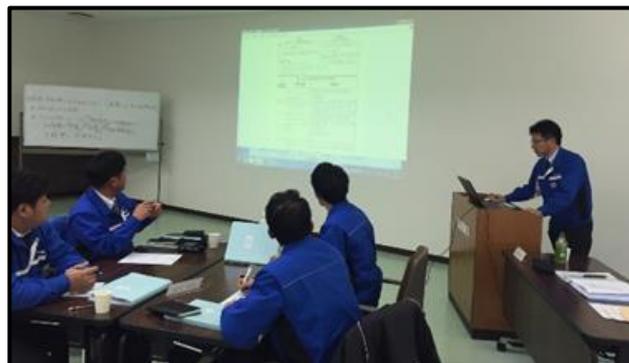
【基準】○：できている、△：できているが改善の余地あり、×：できていない

項目		計画	評価	取組結果	
CO ₂ 排出量の削減	電力	エアコン設定温度の表示	○	会社全体として電気使用量削減によるCO ₂ 削減は達成しました。 新型コロナ第7～8波で感染・濃厚接触の従業員も多数発生したが、個々人の換気方法の意識も向上しエアコンの電気使用量を低減。 照明のLED化は計画的に進んでおり、電気使用量の削減ができた拠点も増加。	
		クールビズ・ウォームビズによる	○		
		エアコン使用期間削減	○		
		照明の使用時以外の消灯	○		
		昼休みの消灯	○		
		ブラインド・カーテンの効率的な活用	○		
	軽油	ガソリン	アイドリングストップの励行	○	エコドライブの教育・指導を行って計画を実践し、ガソリン使用は削減達成。 実演の強化・中古流通の促進によるトラック使用頻度増のため軽油使用量は依然増加。
			社用車に不要な荷物を乗せない	○	
			同一目的地への相乗り乗車	○	
	ガス	灯油	クールビズ・ウォームビズで灯油の使用を控える	○	フォームビズ(重ね着)等により灯油使用は抑制できたが、LPガスの使用量は微増で未達成。
		給湯使用時は、極力お湯を溜めて使用	△		
廃棄物	一般	各自治体・地域にあった適切な方法で排出	○	排出法・分別は適正に行われている。 裏紙使用や使用済み封筒の再利用など実践できているが、一般廃棄物の排出量は増加。	
		極力リサイクルされるように分別	○		
		廃棄物量の削減に努める	△		
	産業	廃棄物置場の適切な表示と分別	○		
		マニフェスト管理と適正な分別収集	○		
	定期的（3ヶ月以内）な計画排出の維持	○	表示と分別は正しく行まれており、指定業者への回収依頼により適正に排出している。 排出量も減少しているが、会社業績の比例によるものと推察。		
水	排出	水道蛇口付近に節水表示にて注意喚起	○	ひとり1人の節水意識の心がけにより水の使用量は削減できている。	
		農業機械を預かる際は現場で土・泥を極力落とし洗車時の水使用を控える	○		
環境配慮製品の販売		地域性を重視し各支社の台数を決定し販売強化の実施	△	トラクター・田植機の台数は未達成でした。 会社業績が大きく反映される目標のため、目標設定方法の見直しも行います。 新たに取り扱いはじめた「CHC-NAV」や「アイガモロボ」の普及推進も図ります。	
		買い替え需要客への早めのアプローチ	○		
		営業計画を策定し2ヶ月未訪問を減らす	○		
		環境配慮製品の販売のために、新製品の情報提供をこまめに行う	○		
農薬の散布推進	マルチ	目標台数を決定し普及推進	△	台数の普及は鈍化しましたが、実演を大幅に強化しており農家への認知度は着実に向上しています。5年先10年先を見据えて活動の幅を広げていきます。	
		大規模農家を中心に実演を強化	○		
		情報提供の拡大（HPの活用等）	○		
		教習所運営の安定・維持	○		

環境への取り組み①（全体）

教育・訓練の実施

- ・ 環境責任者・推進者クラスの
エコアクション21研修会
- ・ 各事業所からの環境に関する質疑応答
（事業所訪問時・随時）
- ・ エコアクション21事務局への教育・
打ち合せ（随時）



環境コミュニケーションの実施

- ・ 内部統制会議（月1回実施）
- ・ 安全衛生委員会（月1回実施）
- ・ 朝礼コンプラ（毎週実施）
- ・ その他、各種会議

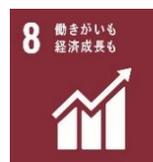
※できる限りWEB会議を活用し、
移動のガソリン・時間を削減。

- ・ 朝礼・回覧・社内LANの活用で
環境への取り組みや啓発。



展示会の開催

- ・ 環境配慮製品の展示
製品の普及による環境活動。
- ・ 疎植栽培の説明会。
低コスト・省力化への貢献。
- ・ マルチローター農薬散布の実演
省人化・省力化、使用する農薬の
削減効果を実演により説明し、
普及拡大を進めています。



環境への取り組み②（各事業場での活動）

エアコン

冷房28度・暖房22度の設定を基本として、設定温度を抑制することにより電気使用量を削減。



照明

来客時以外の展示場照明の消灯。
使用時以外や昼休み等は、こまめに消灯し電気使用量の削減。
事業所ごとに順次LED化を推進し、職場環境の向上を推進。



節水

掲示物による啓発。
水道の出しっぱなしの抑制。
水使用量の情報提供による環境意識の向上。



ペーパーレス

ミスプリント裏紙の使用による抑制。
紙保管の必要がない書類のデータ保管の推奨・推進。
工数削減の効果にも寄与します。



運転

エコドライブの指導・実践。
効率的な営業ルート(方面・訪問順)の組み立てにより走行距離を抑制して、ガソリン消費量の削減。
工数削減の効果にも寄与します。



環境への取り組み③（提案）

疎植栽培の推進

坪あたりの植え付け株数を従来より減らして栽培する方法。

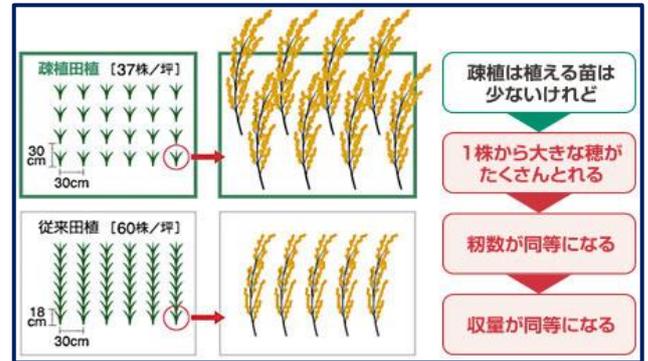
生産者の省力化・低コスト化に貢献！

<生産者も労働時間削減>

労働時間が短縮されることにより、省エネおよび燃費向上に繋がります。

<育苗コストの削減>

省資源で農薬使用量も削減され、環境維持にも貢献します。



マルチローター農薬散布の推進

従来の噴霧器による農薬散布と比較し、大幅な省力化及び農薬使用量の削減に寄与します。

<期待される効果>

作業時間 : 5~8時間 → 20~30分

農薬使用量 : 15~20%削減



スマート農業製品の普及推進

ロボットトラクター・直進アシストなど、ICT技術を活用した農業機械製品の普及・推進により、農業従事者の省力化・時間短縮・業務効率の向上によって大局的な観点からも環境への配慮の一助に繋がります。



環境への取り組み④（ツール）

タブレット端末の活用

業務効率化の一環として、すべての営業職・幹部にタブレット端末を支給。

【効果】

- ・ 外出先からパソコン同様の情報取得が可能になり業務時間が軽減（時間外労働の抑制）
- ・ 社内ネットワークにもアクセス可能になり、一時帰社の必要性が減少し移動効率が改善またガソリン消費も抑制されます。
- ・ 製品・部品等、各種リストのペーパーレス
- ・ 紙出力した顧客情報リスト等の個人情報漏洩リスクの軽減。



独自ネットワーク

【i-Magazine（アイ-マガジン）】

タブレット端末やスマートフォンの活用にあたり、オリジナルアプリ『i-Magazine』を開発・導入

- ・ 顧客情報・製品・部品・中古品在庫など情報取得が可能になり業務効率が向上
- ・ 従来、紙出力して携行していた各種リストのペーパーレスに繋がります。

【グループウェア】

外出先からでもグループウェアへのアクセスが可能になり、社内共有情報や連絡などがタイムリーに確認できるようになりました同じくペーパーレス・ガソリン使用量の軽減に繋がります。



環境への取り組み⑤（グループ）

技術開発

【井関農機の認められた確かな技術】

キセキ九州社員一同は、販売会社としての仕事を通じ日々農家の方々の立場になり、真摯な対話をしています。

その中から、より良い仕様や新製品につながるようなヒントをメーカーである井関農機へフィードバックしており、それが結果的に新製品の開発、発明及び特許へと結びついています。

今後も省エネ農業機械（低燃費・多機能・高効率）等の環境配慮製品を重点的に販売するとともに、より良い製品づくりを通じて日本の農業・地域環境づくりに寄与して参ります。



1. 特許査定率と順位

年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
特許査定率(%)	84.6	83.7	90.4	89.3	85.8	88.5	91.8	91.8	94.7	97.0	99.2	97.5	100.0	98.1	96.4	97.7
全産業中 順位	7年連続 1位							2位	6年連続 1位						2位	1位

※特許査定率 = 特許査定件数 / (特許査定件数 + 拒絶査定件数 + 取下・放棄件数)

2. 分野別登録(公開)数順位

年	2000～2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
分野	農林水産	その他の特殊機械												
順位	7年連続 1位	8年連続 1位								2年連続 1位		2位	1位	

※特許行政年次報告書2018年度版では、従来の「分野別公開数」から「分野別登録数」に公表内容が変更されております。

※2007年度版から分野編成が変更され、農林水産分野は「その他の特殊機械分野」に包含されました。

出展：特許行政年次報告書2002年度版～2021年度版に基づく

COOL CHOICE

環境省が掲げる『COOL CHOICE』の取り組みに、キセキグループとして賛同しており、エコアクション21の取り組みと紐づけて活動しています。



未来の
ために、
いま選ぼう。

井関グループは、
環境省による地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を
促す国民運動である【COOL CHOICE】の取り組みに賛同しています。
「賢い選択」の提案として「エコ商品」など
環境に配慮した商品の開発普及を推進しています。



環境への取り組み⑥

教育

主にスマート農業や食育について、農業高校を中心に多くの教育機関に対して出張講義・体験学習を開催！

【2022年】

熊本県立南稜高等学校

6月9日 直進アシスト田植機

10月5日 収量コンバイン

熊本県立八代農業高等学校

7月4日 直進アシスト田植機

8月4日 ロボット田植機

宮崎県立農業大学校

12月9日 有人搭乗型オートトラクタ

直進アシスト田植機

ラジコン草刈機



電気使用量の『見える化』（本社）

エアコン・照明スイッチの隣に電気保安機器を設置して、電気使用量の『見える化』を実施したことにより、啓発効果と一人一人の意識向上に繋がりました。

前年実績に基づき目標数値を設定して、数値を超えると警告音が鳴るようにして更に節電効果も向上しました。



●メニュー画面



●結果の確認



●季節に合わせて目標設定を調整



●各種設定画面

環境関連法規の遵守、違反・訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守評価

(遵守 : ○ 対象外 : -)

	環境関連法規名	主な要求事項	対象	本社	北部	中部	南部	佐賀系統
1	消防法	消火器の設置	全拠点	○	○	○	○	○
2	廃棄物処理法	適正な処理、産廃置場の表示	全拠点	○	○	○	○	○
		委託収集業者の許可証確認	本社のみ	○	-	-	-	-
		マニフェストの保管義務(保管期限5年)	本社のみ	○	-	-	-	-
		マニフェストの交付等状況報告(毎年6月)	本社のみ	○	-	-	-	-
3	毒劇物取締法	販売業者の県への登録	各営業部	○	○	○	○	-
		毒劇物取扱責任者の選任、県への届出	各営業部	○	○	○	○	-
		盗難防止、紛失防止	選任拠点	○	○	○	○	-
		貯蔵場所の表示	選任拠点	○	○	○	○	-
4	農薬取締法	販売届出	各営業部	○	○	○	○	-
		適正管理	全拠点	○	○	○	○	-
5	浄化槽法	浄化槽の保守点検・清掃の義務 年1回の法定検査の実施義務	浄化槽 設置拠点	-	○	○	○	-
6	騒音規制法	規制基準内の遵守 (騒音で近隣から苦情がきていないか)	全拠点	○	○	○	○	○
		騒音規制条例の遵守 届出等	全拠点	○	-	○	○	-
7	家電リサイクル法	不用となったTV・洗濯機・冷蔵庫・エアコンは、 家電リサイクル券を購入し業者へ引き渡す	全拠点	○	○	○	○	○
8	パソコンリサイクル法	不用となったパソコンはメーカーに引き渡す (各拠点は本社へ引き渡し、管理部が一括で業者へ引き渡し)	全拠点	○	○	○	○	○
9	自動車リサイクル法	使用済みとなった自動車を引取り業者に 引き渡す	全拠点	○	○	○	○	○
10	フロン排出抑制法	エアコン等の簡易点検実施(3ヶ月に1回) 及び記録保管、廃棄時の適正処理	全拠点	○	○	○	○	○
11	地下水保全条例	熊本県への設備設置の届出、報告(毎年4月)	熊本県	○	-	○	-	-

環境関連法規等の遵守評価

2023年1月10日に遵守状況の確認をした結果、遵守違反はありませんでした。
関係当局からの違反などの指摘、訴訟、及び環境関連の苦情はありません。

代表者による全体評価と見直し

社長への報告事項	社長の全体評価と見直しにおける指示事項
<p>環境経営目標の達成と進捗状況（当該記録参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止策としての室内換気は個々人の換気方法の意識向上により夏・冬のエアコン使用電力量を抑制できました。 ・CO₂排出量においては軽油の使用量が依然増加傾向にありますが、実演の強化・中古流通の促進でトラックの使用が増加しているための使用量上昇です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナによる規制も緩和傾向にあるが、物価高の影響による経済の停滞感は脱していません。業務改善により事業の成長と環境配慮の両立を図り、全拠点の黒字化と健全な環境経営を実現すること。 ・増加するエネルギー使用量があっても、その増加率以上成果(収益)となる取り組みを実践し、会社の成長へと繋げていくこと。
<p>環境経営計画の実施及び運用結果（当文書参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社展開10年目となり、各事業所においてペーパーレス・節水・エアコン温度設定抑制などは『当たり前』という意識向上レベルに達しています。 ・5S活動とエコドライブの意識向上に注力し、更なる環境への取り組みを推進します。 ・環境配慮製品の「環境」「食」に関わる重要性の意識向上を図り社会的意義をもって販売活動を実践します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域No.1拠点を目指した活動の中で、好事例がある事業所の取り組みは、積極的に水平展開して全事業所のレベルアップに繋げていくこと。 ・環境配慮製品（トラクター・田植機）の推進については本業の柱であり、当社の成長がそのまま環境の改善や維持へと直結する重要性を再認識し、誇りをもって推進活動に邁進すること。
<p>環境関連法規等の遵守状況（当文書参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遵守自己チェックの結果は問題ありませんでした。今後は、内部監査を充実させて、チェック機能を強化していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境内部監査は、業務監理室および各営業部の業務課と連携を取りながら充実を図り、PDCAを回すこと。
<p>外部からの環境に関する苦情・要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にありませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する苦情は無いと考えるが、商品およびサービスへの苦情・要望等へ迅速・的確に対応し顧客満足の上上に努めること。
<p>環境経営方針、環境経営目標、活動計画、環境経営システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物排出量は、営業成績に比例していますので、分別の徹底を目標としています。 ・マルチローターによる農薬散布の推進を加速させるため情報提供機会の増加（実演・WEB活用）と提案の強化を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2017年度版ガイドライン」の理解を全事業所に広く深く浸透させ、安定した事業継続と環境活動の両立を更に高めてゆくこと。 ・マルチローターによる農薬散布は成長分野の一つのため更なる積極的な推進に注力すること。また、『CHC-NAV』『アイガモロボ』等の環境配慮製品の普及も推進すること。
<p>その他、運用上の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。 	
<p>実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者・環境管理担当者で推進しています。本社各部門及び各支社の支援活動と、各事業所の環境推進者による日常的な推進を維持しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も環境活動の必要性和意義を、全社員が常に意識し営業活動に生かすことにより、生産性の向上に勤めること。

株式会社キセキ九州 代表取締役社長 村瀬 武志

持続可能な開発目標 SDGs : Sustainable Development Goals

SDGsとは先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の目標として、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。（2015年9月に国連で採択されました）

貧困や飢餓、水の保全、教育、医療、言論の自由やジェンダーなど、人々が人間らしく暮らしていくための社会基盤を2030年までに達成するという目標になっていて、17のゴール（目標）とそれぞれの下に具体的な169項目のターゲット（達成基準）があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



中セキ九州では、これまで継続して取り組んできたエコアクション21に関わる環境活動を取り入れて、SDGsの活動にも取り組んでまいります。

次年度の環境経営目標・計画

2020年度実績を基準として2023年度は3%削減とする（※新設・統廃合した事業所分は調整済み）

項目	単位	2020年度 (実績/基準)	2023年度目標 (3%削減)
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	2,463,097	2,280,767
電力使用量	kWh	958,389	896,488
ガソリン使用量	L	525,908	505,628
軽油使用量	L	296,392	286,150
灯油使用量	L	9,428	8,503
LPガス使用量	kg	1,133	1,041
産業廃棄物	t	879.1	排出量を把握する
水使用量	m ³	9,222	8,409
環境配慮製品の販売(トラクタ)	台	964	経営計画による
環境配慮製品の販売(田植機)	台	589	経営計画による
環境配慮製品の販売(マルチローター)	台		経営計画による

【事業所の増減分を調整して目標設定】

※電力のCO₂排出係数は、九州電力の2021年度の調整後排出係数「0.385 kg-CO₂/kWh」を使用。

※産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃油等）は、営業成績に比例するため削減目標とはせず、分別の徹底を行います。

※環境配慮製品の目標は、毎年の経営計画にて策定します。

※一般廃棄物は少量の為、目標には設定せず日常活動で管理します。

項目	2023年度 計画	
CO ₂ 排出削減	電力	エアコン設定温度の表示、クールビズ・ウォームビズによるエアコン使用期間削減
		照明の使用時以外の消灯、昼休みの消灯、ブラインド・カーテンの効率的な活用
	ガソリン	アイドリングストップの励行、効率的な走行ルート(走行距離のムダ削減)
		軽油
	灯油	クールビズ・ウォームビズで灯油の使用を控える
ガス	給湯使用時は、極力お湯を溜めて使用	
廃棄物	一般	各自治体・地域にあった適切な方法で排出、極力リサイクルされるように分別
		廃棄物量の削減に努める
	産業	廃棄物置場の適切な表示と分別、定期的（3ヶ月以内）な計画排出の維持 マニフェスト管理と適正な分別収集
水排出	水道蛇口付近に節水表示にて注意喚起	
	農業機械を預かる際は現場で土・泥を極力落とし洗車時の水使用を控える	
環境配慮製品の販売	地域性を重視し各支社の台数を決定し販売強化の実施、買い替え需要客への早めのアプローチ	
	環境配慮製品の販売のために新製品の情報提供をこまめに行う、2ヶ月未訪問を減らす	
マルチローター 農業散布の推進	目標台数を決定し普及推進、大規模農家を中心に実演を強化、情報提供の拡大（WEBの活用等）	
	教習所運営の安定・維持	

編集後記

2022年度の「環境経営レポート」は、以上の通りです。

今年も無事「環境経営レポート」を発行することができたのは、本社、支社、営業所の環境推進者及び各担当者のお力添えによるものです。この場をお借りして感謝申し上げます。

また、お客様はじめ当社に関わる多くの方々に、ご高覧頂ければ幸甚でございます。

今後とも当社をよろしくお願い申し上げます。

株式会社 中セキ九州 本社管理部
ありがとうございました。